

< 栃木地域 >

■ 人柱伝説

その昔、^{うすまがわ}巴波川が^{はんらん}氾濫し、橋がなかなか^{しゅうふく}修復できなかつたときに、神様の怒りを静めようと人柱を立てることになり、若い娘を生きたまま川に…。

そのおかげで川の^{はんらん}氾濫が収まり、平和になったが、村に子供が^{さす}授からなくなってしまい、^{しゅうふく}修復した橋は「子ない橋」と呼ばれるようになった。

その後、^{うらな}占ってもらったところ、娘の^{じょうぶつ}霊が成仏できないことが原因だということが分かり、川に108個の^{とうろう}灯籠を流した。すると、大きな竜が現れ、娘を乗せて天高く上っていった。その後、村には子供が^{さす}授かるようになり、いつしかこの橋を^{こうらいばし}「幸来橋」と呼ぶようになったという。